



2024 年度

「民間公益活動を推進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく

通常枠 [第 2 回]

実行団体公募要領

地域格差と貧困を超えるオルタナティブスクール創出事業

持続可能な運営とステークホルダー全員のウェルビーイングの実現を目指して

2025 年 4 月

NPO 法人エデュケーションエキューブ

目次

公募概要	2
助成プログラム趣旨	4
第Ⅰ編 公募について	5
1 章 公募の趣旨	5
01 趣旨	5
02 休眠預金等交付金に係る資金の活用により目指す姿	5
03 休眠預金等に係る資金の活用にあたっての基本原則	6
04 優先的に解決すべき社会の諸課題	6
2 章 助成対象となる事業	7
01 助成方針	7
02 助成対象事業	8
03 助成金の構成	11
3 章 助成対象となる団体	12
01 実行団体とその役割	12
02 事業の評価	12
03 申請資格要件	13
04 申請時の注意事項	14
4 章 助成対象となる経費	14
01 助成額の積算について	14
02 助成金の目的外使用の禁止・財産の処分制限	15
第Ⅱ編 申請について	16
1 章 申請手続き	16
01 公募期間・スケジュール	16
02 申請方法	16
03 申請に必要な書類	17
04 公募説明会・個別相談会の実施	18
2 章 審査結果の通知等	18
01 審査結果の通知方法	18
02 審査結果の情報公開	18
3 章 審査について	19
01 選定基準等	19
02 審査における歓迎要件	20
03 その他の審査における着眼点	21
第Ⅲ編 選定から助成終了まで	22
1 章 助成事業の流れ	22
01 助成期間中の主な流れ	22
02 内定から資金提供契約まで	22
03 資金提供契約及びその要点	23
04 助成金の公正な活用及び事業の適正な遂行の確保	24
05 会計監査の実施	25
2 章 その他	25
01 個人情報の取扱いについて	25
お問い合わせ先	25
別添1:ガバナンス・コンプライアンス体制現況確認書作成の際の参考資料	26
別添2:コンソーシアムでの申請	27

公募概要

応募資格	申請事業に関連する実績と意欲を持ち、説明責任と情報公開を徹底する意思のある法人。助成事業最終年度に助成予算の2割以上の自己資金の確保が必要です。
対象となる団体	福岡（除く福岡地区）、佐賀、長崎、大分など北部九州地域において、持続可能な“学校の代わり”となる学びや体験の環境を構築し、子どもたちの多様な学びを支えたいという強い思いを持つ団体を対象とします。 すでに取り組んでいる団体はもちろん、資金分配団体の支援を受けながら今後取り組もうとする団体や取り組みへの意欲を持つ個人も含まれます。 ・オルタナティブスクール・フリースクール等を展開している法人・団体 ・オルタナティブスクール・フリースクール事業を開始したいと考えていて、既に放課後等デイサービス等の困難を抱える子どもの支援経験がある法人・団体 ・新たにオルタナティブスクール・フリースクール等を開校したいと考えている個人（法人設立を前提） ・家庭環境や障がいの有無にかかわらず、すべての子を受け入れようと取り組む意欲のある団体
期待する活動概要	北部九州地域において、以下のような活動を通じて「学校の代わりとなる学びの場」の選択肢を地域に根付かせ、学校に通えない子どもたちが安心して学べる環境の構築を図ることを期待しています。 ・学校に通えない子どもが通えるフリースクールやオルタナティブスクールの運営 ・多様な子どものニーズに応じたカリキュラムや体験活動の導入・改善 ・子どもたちが安心して過ごせる日常的な支援体制の整備による、子どもの心身の健康の回復やウェルビーイングの向上 ・情報発信や地域との継続的な対話を通じた「多様な学びを認める社会」の実現に向けた理解の向上
1 団体あたりの助成額	総額 1,000～1,200 万円程度（年間：350 万円程度） ※助成事業に対する評価(事前評価・中間評価・事後評価)を実施していただきます。そのための経費として上記とは別に評価関連経費(助成金額の 5%以下)が助成されます。
採択予定実行団体数	3 団体
助成契約の形態	複数年における助成契約（年度ごとの助成額の見直しあり）
助成金の資金使途の想定	北部九州地域において、持続可能な「学校の代わりとなる学びの場」の新設・拡充のための初期投資及び黒字化までの運転資金。土地の購入は対象外とし、助成対象が原則、賃貸のみとします。 （事業期間中に実際に支払われた金額のみが対象となります。）
助成期間	2028 年 2 月 末を期限とする最長 2 年 6 ヶ月

主なスケジュール	公募説明会 2025年5月1日 12:00 個別相談会・勉強会 2025年5月8日より 書類提出締め切り 2025年6月15日（日）23:00 書類選考結果通知 2025年6月下旬 最終選考 2025年7月上旬 採択結果発表 2025年8月下旬
評価基準	① 実行可能性：提案された事業が、解決すべき社会課題に対して適切に設計されており、目的・内容・手法・実施体制・予算などが論理的かつ明確であるか？ ② 継続性：助成期間終了後も事業が持続可能となるような運営方針や資金計画、体制の見通しが示されているか？ ③ 先駆性（革新性）：従来の学校に代わる新しい学びの選択肢を構築するという視点を持ち、地域性を活かしながら、独自性や先駆な要素を有しているか？ ④ ステークホルダーとの連携・対話力：保護者、教育機関、行政、地域住民、企業など多様な関係者と信頼関係を築き、協力・連携のもとで事業を推進する姿勢があるか？ ⑤ 子どもおよびスタッフのウェルビーイングへの配慮：子どもが安心して学べる環境づくりやスタッフが働きやすく意欲的に活動できるよう配慮されているか？ ⑥ 多様性・インクルージョンへの理解と実践：子どもの多様な背景やニーズを踏まえ、学習内容や方法、授業料、支援体制などにおいて柔軟かつ創造的な工夫がなされているか？ ⑦ ガバナンス・コンプライアンス：事業を公正かつ適確に遂行できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか？
事業評価について	助成決定後、3ヵ月以内に資金分配団体と実行団体の評価計画に基づき、事前評価を実施します。
伴走支援	Slack を使った常時相談に加え、月に1回程度の打ち合わせがあります。また参加必須の研修や報告会があります。
総事業費	62,680,944 円
事業種別	草の根活動支援事業
対象地域	福岡県（北九州、筑豊、筑後）、佐賀県、長崎県、大分県
申請方法	ホームページより申請書式をダウンロードした上で申請書類をフォームから送付してください。
連絡先	info@education-a3.net

助成プログラム趣旨

本助成プログラムは、経済的な理由や学校になじめないことを背景に、学ぶ機会を失っている子どもたちのために、地域に根ざした持続可能な「学校以外の学びの場」を増やすことを目的としています。

日本では、特にひとり親家庭など経済的に厳しい家庭の子どもたちが、学校に通えなくなった場合に必要な学習や体験の機会を得にくく、将来の可能性が制限されやすい状況があります。また、不登校の子どもたちは全国で30万人を超え、長期欠席や孤立状態にあるケースも多く見られます。そうした中で、フリースクールやオルタナティブスクールは重要な受け皿となっていますが、運営には公的支援が乏しく、費用負担や継続性の課題を抱えています。

九州では、福岡都市圏を除く地域において、子どもたちが通える「学校以外の学びの選択肢」が限られており、困難を抱える子どもたちが心身の安定を得て、生活や学びに前向きになれる場の不足が深刻です。

本プログラムでは、福岡・佐賀・長崎・大分など九州地域を対象に、子どもたちが安心して通える学びの場を地域に広げることを目指し、意欲ある法人や個人の皆さまを支援します。資金面では休眠預金を活用した助成を、運営面では私たちが7年間の実践を通じて蓄積してきたノウハウによる伴走支援を提供します。

さらに本事業では、子どもが安心して通える環境を整えるとともに、フリースクールやオルタナティブスクールの存在意義についても広報・啓発活動を行い、地域社会に「多様な学びを認める」という意識が広がっていくことを目指します。

また、今回のプロジェクトは、NPO 法人エデュケーションエキューブの事業モデルを展開するものではなく、実行団体の皆さまとイコールパートナーとして協働し、各地域の特性に応じた独自の運営体制やカリキュラムの構築を尊重します。地域ごとの状況に合わせた学びの場が、持続可能なカタチで広がっていくことを目指しています。

NPO 法人エデュケーションエキューブ
代表理事 草場勇一

第Ⅰ編 公募について

1 章 公募の趣旨

01 趣旨

我が国においては、人口減少、高齢化及び国際化の進展等の経済社会情勢の急速な変化が生じており、国民生活の質や水準への影響等、様々な社会課題に直面しています。一方で、様々な社会課題の中には、法制度や予算等の仕組み上、既存の施策では十分な対応が困難であり、国及び地方公共団体では対応が困難な課題が多くあります。

これらの社会課題の解決に資する民間公益活動を促進するための「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成 28 年法律第 101 号）」（以下「法」という。）等¹に基づき、一般財団法人日本民間公益活動連携機構²（以下「JANPIA」という。）は、法に基づく指定活用団体として民間公益活動を行う団体（以下「実行団体」という。）に対して助成を行う資金分配団体を公募し、当団体が採択されました。

02 休眠預金等交付金に係る資金の活用により目指す姿³

休眠預金等交付金に係る資金（以下「休眠預金等に係る資金」という。）の活用目的は以下 2 点です。

- ① 国及び地方公共団体に対応することが困難な社会課題の解決を図ること
- ② 民間公益活動の自立した担い手の育成及び民間公益活動に係る資金を調達することができる環境を整備すること

これらの目的を達成することで以下のような効果が期待されます。

- 社会課題の解決のための自律的かつ持続的な仕組みが構築される
- 資金分配団体や実行団体が民間の資金を自ら調達して事業の持続可能性を確保する
- 我が国の社会課題解決能力が飛躍的に向上する
- 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する

本事業の財源である休眠預金等は国民の資産であることから、国民をはじめとするステークホルダーに対する事業の透明性や説明責任を果たすとともに、事業による成果の可視化も求められます。そのため休眠預金事業では、事業評価の実施を重視します。また、民間公益活動の持続可能性を担保するために、民間公益活動を担う組織能力強化を目的とした伴走支援に重点を置いています。

¹ 民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律 説明資料

² 一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）、JANPIA の 10 項目のミッションと 7 項目のバリュー

³ 「休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針」P3～4

03 休眠預金等に係る資金の活用に応じた基本原則⁴

休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針（平成 30 年 3 月 30 日内閣総理大臣決定）において「休眠預金等に係る資金の活用に応じた基本原則」が定められています。この基本原則に基づいて、休眠預金等に係る資金を活用する指定活用団体、資金分配団体、実行団体は業務を遂行することが求められます。基本原則は以下の 9 項目から構成されています。

- (1) 国民への還元 (2) 共助 (3) 持続可能性 (4) 透明性・説明責任
- (5) 公正性 (6) 多様性 (7) 革新性 (8) 成果最大化 (9) 民間主導

04 優先的に解決すべき社会の諸課題

休眠預金活用事業において優先的に解決すべき社会の諸課題は以下のとおりです。

[優先的に解決すべき社会の諸課題]

- (1) 子ども及び若者の支援に係る活動
 - ① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
 - ② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
 - ③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
- (2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
 - ④ 働くことが困難な人への支援
 - ⑤ 孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援
 - ⑥ 女性の経済的自立への支援
- (3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動
 - ⑦ 地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援
 - ⑧ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

このうち、本公募により助成する民間公益活動では、

- (1) 子ども及び若者の支援に係る活動
 - ① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
 - ③ 生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援

の解決を目指しています。申請団体は、事業を提案するにあたり上記の優先すべき社会の諸課題から取り組む課題を選択してください。また、上記 (1) から (3) の活動のうち、①から⑧以外でも、社会の諸課題の解決において多大な影響や効果が期待され優先して取り組むべき事項と考えられるものについては、その解決策や事業目標に関する提案が可能です。

⁴ 「休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針」P5～8

2 章 助成対象となる事業

01 助成方針

① 助成額

実行団体に対する助成額は、JANPIA から資金分配団体に支払われた助成金額の範囲内で、実行団体が提出する事業計画の内容を踏まえて決定します。

② 助成期間

資金分配団体である当団体（以下、「当団体」という。）は、最長 2 年 6 ヶ月、実行団体に対して複数年度にわたる助成を行います。ただし、事業の終了時期は、原則として最長で 2028 年 2 月末までとし、別途資金提供契約（資金分配団体と実行団体が締結する契約）に定めることとします。

③ 助成金の支払い

助成金の支払いは、資金提供契約に基づき概算払いで行います。複数年度にわたる事業の場合には、申請時に複数年度にわたる事業計画と資金計画等の提出が必要です。

④ 自己資金の確保

実行団体の選定に際しては、事業の特性に応じ、休眠預金等に係る資金に依存した団体を生まないための仕組みとして、補助率を設定し、事業に係る経費の 20% 以上は自己資金又は民間からの資金の確保を原則とします。ただし、財務状況や緊急性がある場合には、特例的にその理由を明示していただき、自己負担分を減じることを検討しますが、複数年度の事業においては、助成終了後の事業継続を見据えて事業の最終年度には補助率を原則である 80% 以下にさせていただきます。

⑤ 管理的経費

実行団体は、助成額の一部を管理的経費に充てることを可能とします。当該管理的経費は、役職員の人件費等や管理部門等の管理経費、事務所の家賃等に要する経費で、当該業務に要する経費として特定することが難しいものの、一定の負担が生じている経費とし、助成額の最大 15% とします。

⑥ 人件費

総事業費の中で人件費を対象とする場合は、その旨と人件費水準等（人件費の幅又は平均値）を特記して Web サイト上で公表することを資金提供契約に定めることとします。

⑦ リスク管理

期待された社会的成果が達成できない可能性も想定し、適切なリスク管理を行っていただきます。

02 助成対象事業

①助成活動により目指すゴール

<本事業が目指す中長期的なゴール>

長期アウトカム（事業終了後の5年後、2033年）

・日本において、学校以外の選択肢を選ぶことが特別ではなくなり、学校と遜色のない質の高い学びが提供される中で、子どもたちがウェルビーイングを意識して選択・行動できるようになっている。

中期アウトカム（事業終了後2年後、2030年）

・持続可能なオルタナティブスクールなどの増加

北部九州地域において、持続可能な運営体制を確立したオルタナティブスクールが増加し、学校に通えない子どもたちとその保護者が、安心して通える学びの場を得られるようになっている。

・質の高い学びの提供による新たな教育価値の実現

各スクールが、基礎学力に加えて、探究的な学びや新しい時代に必要なスキル等を身につけられる多様なカリキュラムを提供しており、学校の代わりとなる教育機関としての信頼性を高めている。

・子どもたちのウェルビーイング意識の向上

子どもたちが安心して過ごせる学びの場で心身・生活が安定し、自らのウェルビーイングを意識しながら学び続けられるようになっている。

・多様な学びを認める地域社会の醸成

オルタナティブスクール等の存在・意義についての広報・啓発活動により、地域社会で「多様な学びを認める」認識が広がり、「学校以外の学び」への理解・受容・支援が進んでいる。

<本事業が目指す短期的なゴール>

短期アウトカム（事業終了時点）

資金分配団体・実行団体と共に、本助成事業終了後に以下のアウトカム(目指す状態)を実現したいと考えています。（申請にあたっては、実行団体の特性・知見や地域の特性を踏まえた独自の提案を歓迎します）

1. 北部九州地域において、オルタナティブスクール等が新設・拡充され、不登校の子どもが安心して通える学びの場が増加する

2. 北部九州地域において、オルタナティブスクール等で多様で魅力的な学びや体験のプログラムが展開され、学校の代わりとなる選択肢として学校や地域に認知されている。

3. 北部九州地域において、困難を抱える子どもたちが学校の代わりに安心して過ごせる学びの場で心身・生活が安定し、子どもたちのウェルビーイングが向上する。

4. 北部九州地区において、オルタナティブスクール等の意義についての広報・啓発により、地域社会で「多様な学びを認める」認識が広がり、理解が深まる。

以下は、実行団体内の変化として目指す状態です。

5. 実行団体が、自団体の理念を明確にし、中長期の計画を立て、収支バランスを意識した経営に取り組んでいる。

6. 実行団体がファンドレイジングスキルを高め、多様な資金源を活用しながら、自主的・継続的な資金調達を実施できるようになっている。

7. 実行団体が、スタッフの教育スキルと組織運営スキルを向上させ、スクール運営の質を高めている。

8. 実行団体が、スタッフの働きがいや心身の安定に配慮し、スタッフのウェルビーイングの向上を図っている。

9. 実行団体が、組織基盤強化支援を通じて、透明性と信頼性のあるガバナンス体制を確立している。

②本事業に求める要件

以下は必須事項となります。申請いただく事業内容及び資金計画に、下記の要件を含めてください。

1. 安心して通える学びの場を作ること

不登校の子どもが学校の代わりに通える場として安心と学びの両立を目指していること

2. 活動を継続できる体制づくりに取り組むこと

運営スタッフや役割分担を整え、事業終了後も継続できる体制を目指していること

3. 多様な関係者と連携を行うこと

保護者、学校、行政、地域などと協力し、共に支援を進めること

4. 経済的な事情にかかわらず通学できる配慮があること

家庭の状況に関係なく、誰でも通えるよう料金や支援制度を工夫すること

5. 子どもに合った学びや体験を提供しようとしていること

子どもの個性や興味に応じた柔軟で創造的な学びに取り組むこと

※上記に加えて、第Ⅰ編 3 章「03.申請資格要件」にて実行団体の申請資格、第Ⅱ編 3 章「02.優先的に選定される団体」にて優先・加点事項を記載しています。ご参照ください

③事業を通じて、実行団体の皆さまに期待する姿勢

本事業を通じて成果を最大化するため、以下のような姿勢で取り組んでいただくことを期待します。これは提出書類に記載する項目ではなく、団体としての考え方や姿勢として共有されることが望まれます。

1. イコールパートナーとしての協働姿勢

資金分配団体や他の実行団体と対等な立場で学び合い、共に事業を作り上げていく姿勢

2. 成果（アウトカム）志向の取組

短期・中長期のアウトカムの達成に向け、活動の目的や成果を意識して取り組むこと

3. 地域のリーダーとしての意識

地域における多様な学びの担い手として他団体や関係者に波及するような事例の実践者

4. 社会的認知の向上への貢献意識

活動を通じてオルタナティブスクール等が学校に代わる正当な選択肢として認められるよう、広報・啓発にも前向きに取り組むこと

5. 持続可能性の探求と改善への意欲

支援に頼るのではなく、自立した運営体制を構築し続けようとする意志と、継続的に学び・改善する姿勢を持つこと

④伴走支援

自主事業での7年間の運営実績に基づき、豊富な伴走支援メニューを整備しています。実行団体が抱える課題をともに考えながら、独自性や地域性を活かした、持続可能な運営体制の構築を支援します。

■ ヒトの支援

- 新規スタッフ研修の提供
- 他団体との共同スタッフ研修の実施
- スタッフ評価シートの提供と活用支援
- 税理士・弁護士等専門家の紹介
- オンラインでのカリキュラム提供

■ 資金の支援

- 休眠預金による初期投資・運転資金の資金的支援
- 教室開設・機材購入等の資金活用に関する検討・アドバイス
- ファンドレイジング（助成金・補助金・クラウドファンディング）のアドバイス
- 授業料設定や価格戦略に関するアドバイス
- 奨学制度の共同寄付募集支援

■ ノウハウの支援

- 理念・行動規範など作成のサポート
- ロジックモデル・社会的インパクト評価など実施支援
- 運営マニュアルの作成支援
- ICT・AIを活用した学習の導入支援
- 共同カリキュラムの企画・実施
- 過去講演や学習コンテンツのアーカイブ提供
- 学校との連携体制構築に関する支援

⑤支援期間

実行団体とは、月1回の定例MTGでの情報共有や研修に加え、SlackやZoom等のICTツールを活用し日々の課題にも対応し、事業運営をサポートします。また、各地域の協力団体も定期的に現地訪問などによる面談を実施します。

03 助成金の構成

当団体からの助成金は、①実行団体の助成に必要な額から自己資金・民間資金を除いた「助成額」(A)、②評価関連経費(C)から構成されます。

[総事業費の概念図]

C 評価関連経費	A 助成額		B 自己資金や 民間資金等
A に対して 5.0%以下	直接事業費 A に対して 85%以上	管理的経費 A に対して 15%以下	A+B に対して 20%以上

総事業費と助成額等との関係について

- 総事業費(A+B+C)から評価関連経費(C)を除いた事業に係る経費(A+B)を100%とした時、助成額(A)は80%以下、自己資金や民間資金(B)は20%以上となります。
- 補助率=助成額(A)÷事業に係る経費(A+B)
助成額(A)の内訳については直接事業費85%以上、管理的経費が15%以下となります。

3 章 助成対象となる団体

01 実行団体とその役割

社会の諸課題は現場から上がってくることが多いことから、実行団体には、事業の実施により社会の諸課題を解決するだけでなく、そうした課題を可視化するとともに、現場のニーズ等を資金分配団体等にフィードバックし、本制度の改善につなげていただくことを期待しています。

実行団体に期待される役割は以下のとおりです。

- ① 行政の縦割りに「横串」を刺す、あるいは公的制度のいわゆる「狭間」に位置している具体的な社会の諸課題を抽出し、可視化する。
- ② 成果に着目しつつ休眠預金等に係る資金を効果的・効率的に活用し、社会の諸課題の解決に向けた取組を推進する。
- ③ 民間の創意・工夫を十分に活かし、複雑化・高度化した社会の諸課題を解決するための革新的な手法を開発し、実践する。
- ④ 自ら行う民間公益活動の成果評価を実施し、民間公益活動の見直しや人材等の資源配分への反映等、民間公益活動のマネジメントの中で評価を有効に活用する。
- ⑤ 現場のニーズや提案、事業成果等を資金分配団体から JANPIA にフィードバックすることにより、本制度の一層の改善につなげる。

02 事業の評価

国民の資産である休眠預金等に係る資金の活用に当たっては、その成果を広く国民一般にわかりやすい形で公表し説明責任を果たす必要があります。そのために事業実施においては、達成すべき成果を事前に明示したうえで、その成果の達成度合いを重視した「社会的インパクト評価」を、自己評価を基本に実施することで成果の可視化に取り組むこととしています。休眠預金制度における社会的インパクト評価の目的は次のとおりです。

- 資金活用の成果の情報発信を積極的に行うことで広く国民の理解を得ること（所期の成果をあげていることを伝え説明責任を果たす）
- 評価結果を適切に予算や人材等の資源配分に反映することにより、効果的、効率的に行うこと（評価を活用した計画・進捗管理）。
- 厳正な評価を実施することで、事業の質の向上、独創的で革新的な民間公益活動の発掘、民間の資金や人材の獲得等（事業に対する理解を得て、支援者の輪が広がるなど）を促すこと。

上記の目的を達成するため、事業の実施段階に応じて次のとおり行います。

- 事前評価：事業開始時に実施する評価
- 中間評価：複数年度にわたる事業の進捗状況を把握する評価
- 事後評価：事業が終了する際に成果の達成状況や事業の妥当性の検証を行う評価
- 追跡評価⁵：課題の解決に時間を要する事業の場合に、資金の活用後しばらく経過した後に事業の副次的効果や波及効果等を把握する評価

⁵ 必要に応じて実施する場合があります

※評価の詳細は、JANPIA の WEB サイトに掲載している、「休眠預金活用における社会的インパクト評価」をご確認ください。

※資金分配団体や JANPIA は、実行団体において評価の実務経験が少ないなど、必要な場合には、各実行団体の自己評価を伴走支援します。

※評価に関する事務負担が、本来なされるべき民間公益活動の負担にならないように留意します。

03 申請資格要件

実行団体として助成の対象となる団体については、法人格の有無は問いませんが、ガバナンス・コンプライアンス体制を満たしている団体である必要があります。申請事業の運営上の意思決定及び実施を 2 団体以上で共同して行う場合は、共同事業体（以下「コンソーシアム」という。）での申請を行うことができます。詳細は別添 2 をご確認ください。

ただし、上記に該当する団体であっても、以下のいずれかに該当する場合は助成対象となりません。

- 宗教の教義を広め儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする団体
- 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする団体
- 特定の公職（公職選挙法（昭和 25 年法律第 100 号）第 3 条に規定する公職をいう。以下この号において同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とする団体
- 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。次号において同じ。）
- 暴力団又はその構成員（暴力団の構成団体の構成員を含む。以下この号において同じ。）若しくは暴力団の構成員でなくなった日から 5 年を経過しない者の統制の下にある団体
- 暴力、威力と詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求する反社会的団体
- 資金分配団体の選定若しくは実行団体の選定を取り消され、その取り消しの日から 3 年を経過しない団体、又は他の助成制度においてこれに準ずる措置を受け、当該措置の日から 3 年を経過しない団体
- 役員のうち次のいずれかに該当する者がいる団体
 - （ア）禁錮以上の刑に処せられ、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から 3 年を経過しない者
 - （イ）法の規定により罰金の刑に処され、その刑の執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から 3 年を経過しない者
- ガバナンス・コンプライアンスの体制面で、特定の企業・団体等から独立していない団体
- 独立行政法人および国立大学法人

04 申請時の注意事項

- 今回申請する事業と、同時期に他の資金分配団体へ申請している又は申請する予定の事業は別事業であることが必要です。採択結果が分からない段階で、複数の資金分配団体に同一事業の申請をすることはできません。
- 今回申請する事業と、既に休眠預金事業として採択されている事業とは別事業であることが必要です。
- 資金分配団体と申請団体との役員の兼職を不可とし、過去に兼職関係があった場合、退任後6か月間は、当該団体による実行団体への公募申請はできないものとします。

4章 助成対象となる経費

01 助成額の積算について

資金計画書作成の際の助成金の積算については、別途詳細を定める「積算の手引き」を参照してください。なお、以下の点については十分ご留意のうえ積算を行ってください。

- 対象経費
対象となる経費は、助成事業の実施に必要な経費のみとします。
- 事業年度
本事業の事業年度は4月1日から翌年3月31日までとしてください。
- 会計科目
資金計画書等は、原則、申請団体において財務諸表作成目的で通常用いている会計科目を使用してください。
- 算出根拠
各費目は、単価及び数量等の算出根拠を示す必要があります。「謝金」、「賃金」等は、団体の規程に定めがある場合は、当該規定に準拠してください。
- 人件費水準
人件費水準が社会通念上妥当と認められない場合には、調整する場合があります。
- 不動産の取扱い
土地の購入は助成の対象外とし、助成の対象は賃貸のみとします。建物は賃貸を原則とします。建物の購入又は新築は、事業目的の達成のために必要不可欠であり、他に代替手段がない場合に限り JANPIA と資金分配団体の事前の承諾を得たうえで特例として認めることとします。建物の購入又は新築価格の経済的合理性を確保する観点から、JANPIA が不動産鑑定士等による評価を行い、当該評価額の80%を上限に助成します⁶。
- 対象経費の確定
対象となる経費は、資金分配団体及び実行団体それぞれの間の個別の資金提供契約における資金計画書の確定をもって最終決定されるものとします。

⁶ 建物を購入又は新築する事業を計画する場合は、申請前に資金分配団体にご相談ください。

- 税務

特に実行団体が営利法人である場合には、助成金や自己資金・民間資金の取り扱い等税務面での懸念事項について事前に所轄税務署や顧問税理士等にご相談の上、申請をご検討ください。

02 助成金の目的外使用の禁止・財産の処分制限

- ① 実行団体が資金分配団体から受けた助成金を資金提供契約において定める用途以外の用途に使用することは禁じられています。
- ② 実行団体は、本事業の実施により取得し、又は効用の増加した財産（以下「本財産」という。）を、助成期間中及び事業終了後5年間（建物については、法人税法に定める減価償却資産の耐用年数の間）は、善良な管理者の注意を持って管理を行い、事業計画書に定める事業又は事業完了時監査において資金分配団体が承諾した事業の実施以外の目的で、使用、譲渡、交換、貸付け、担保設定その他の処分（以下「処分等」という。）を行う場合は、資金分配団体の事前の書面による承諾を得る必要があります。
- ③ 本財産の処分等により金銭その他の利益を得た場合、資金分配団体はその全部又は一部の返還を求めることができ、実行団体はこれに応じるものとします。
- ④ 本財産は、固定資産台帳その他本財産につき善良な管理者の注意をもって管理を行うために必要な書類を備えて管理してください。

第Ⅱ編 申請について

1 章 申請手続き

01 公募期間・スケジュール

公募要領公開（WEB サイト等）	4 月 28 日（月）
公募説明会の開催	5 月 1 日（木） 12:00-13:30
公募締め切り日時	6 月 15 日（日） 23:00
実行団体の審査、内定通知	7 月下旬
実行団体決定、契約締結、助成事業開始	9 月上旬

02 申請方法

1. 公募開始と同時に、本事業ウェブサイトに掲載されます「申請前登録フォーム」よりメールアドレスをご登録ください。
- 2.登録されたメールアドレスに「本申請フォーム」のご案内が届きます。
- 3.「本申請フォーム」に回答いただいた後、必要書類を指定メールアドレスへ提出してください。
- 4.公募期間中に上記対応を完了いただくことで申請完了となります。

03 申請に必要な書類

申請は、以下の書類に申請内容を記載いただきます⁷。

分類	申請書類		提出形式	単独申請	コンソーシアム申請		備考
					幹事団体	構成団体 ⁸	
申請事業ごとに提出する書類	様式 1 助成申請書		PDF	●	●		※登録印の押印が必要
	様式 2 事業計画書		Excel	●	●		
	様式 3 資金計画書等		Excel	●	●		
	その他（計画の別添等）		PDF	任意	任意	任意	
	様式 4 自己資金に関する申請		WORD	●	●		※該当する団体のみ提出
	様式 5 コンソーシアムに関する誓約書		PDF		●		※幹事団体取りまとめのうえ提出
	様式 6 団体情報		Excel	●	●	●	
団体ごとに提出する申請書類	様式 7 役員名簿		Excel	●	●	●	※役員名簿はパスワード必須 ※パスワードは別途資金分配団体に提出
	様式 8 ガバナンス・コンプライアンス体制現況確認書		Excel	●	●	●	ガバナンス・コンプライアンス体制については、別添 1 参照
	定款		PDF	●	●	●	
	登記事項証明書（全部事項証明書）		PDF	●	●		※発行日から 3 ヶ月以内の写し
	事業報告書		PDF	●	●		※過去 3 年分。設立から 3 年未満の団体は提出可能期間分のみ提出
	決算報告書類		貸借対照表	PDF	●	●	
	決算報告書類	損益計算書（活動計算書、正味財産増減計算書、収支計算書等）	PDF	●	●		
		監事及び会計監査人による監査報告書 ⁹	PDF	●	●		

⁷ 申請書類の作成等申請に要する費用、および選定後資金提供契約締結までに要する全ての費用については、各申請団体の負担となります。

⁸ 詳細は別添 2 コンソーシアムでの申請参照

⁹ 監事及び会計監査人による監査を受けている場合

04 公募説明会・個別相談会の実施

[公募説明会の実施]

オンラインにて公募説明会を実施します

※ 録画も本事業 Web サイトにて公開予定です。

開催日時 :2025 年 5 月 1 日(木) 12:00~13:30

内容:

- ・ 休眠預金活用事業について
- ・ 公募テーマや対象とする事業の概要
- ・ 申請の方法、審査スケジュール
- ・ 計画書類の作成にあたっての留意点
- ・ 質疑応答

参加を希望される方は、本事業 Web サイト内の参加フォームよりお申し込みください。

また、公募開始後にご希望の方にむけ、個別相談会・オンライン勉強会を開催予定です。説明会内容をふまえ、事業のご計画におけるご質問もお受けいたします。開催日時など詳細につきましては確定次第、本事業 Web サイト内で公開予定です。なお、公平性の観点で、個別の事業に関するコメントはでき兼ねますのでご了承ください。

2 章 審査結果の通知等

01 審査結果の通知方法

審査の結果は申請団体に対しメールで通知します。

02 審査結果の情報公開

- ① 休眠預金活用事業の原資が国民の資産であることに鑑み、「国民への説明責任」を果たすため、「情報開示の徹底」、「本制度全体の透明性の確保」等が強く求められています。
資金分配団体は、採択の有無に関わらずすべての申請団体の情報（団体名・所在地・事業名・事業概要）を WEB サイトで広く公開します。
- ② 資金分配団体は、選定した実行団体の情報（選定した実行団体の名称、申請事業の名称及び概要、選定過程、選定理由、選定された各実行団体に対する助成の総額及び内訳並びにその算定根拠）を資金分配団体の WEB サイトで広く一般に公開します、但し公開にあたっては、当該実行団体の正当な権利又は利益を損なわないように配慮します。
- ③ JANPIA では JANPIA の WEB サイト上に資金分配団体の WEB サイトへのリンクを設定するなど、各資金分配団体の実行団体の公募の進捗について一般に公開します。ま

た資金分配団体との協議の上、公募に関する情報を、JANPIA の事業報告書・WEB サイトその他の媒体により広く一般に公開できるものとします。

なお、上記の各公表は、少なくとも助成期間が終了するまで継続します。
また、上記に関しては情報公開同意書（助成申請書に記載がある）を提出していただきます。ただし、公表にあたっては、当該実行団体の権利・利益を損なわないように配慮します。

3 章 審査について

01 選定基準等

実行団体は、次の選定基準に基づき選定を行います。

事業の妥当性 (実行可能性)	提案された事業が、解決すべき社会課題に対して適切に設計されており、目的・内容・手法・実施体制・予算などが論理的かつ明確であるか？
継続性	助成期間終了後も事業が持続可能となるような運営方針や資金計画、体制の見通しが示されているか
先駆性（革新性）	従来の学校に代わる新しい学びの選択肢を構築するという視点を持ち、地域性を活かしながら、独自性や先駆的な要素を有しているか？
ステークホルダーとの連携・対話力	保護者、教育機関、行政、地域住民、企業など多様な関係者と信頼関係を築き、協力・連携のもとで事業を推進する姿勢があるか
子どもおよびスタッフのウェルビーイングへの配慮	子どもが安心して学べる環境づくりやスタッフが働きやすく意欲的に活動できるよう配慮されているか？
多様性・インクルージョンへの理解と実践	子どもの多様な背景やニーズを踏まえ、学習内容や方法、授業料、支援体制などにおいて柔軟かつ創造的な工夫がなされているか
ガバナンス・コンプライアンス	包括的支援プログラムに示す事業を公正かつ適確に遂行できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか

※その他選定時の留意事項

- 政治活動や宗教活動等との峻別

申請資格要件に関連して、申請事業については、政治活動や宗教活動等と明確に区分された内容となっていることが必要です。

〈想定される不適切な事例〉

（例１）主として団体の政治活動や宗教活動等に要する人件費、整備備品費その他の経費を本事業の経費として助成金を充当（流用）するケース

(例2) 休眠預金等活用事業により購入した物品・機材等を団体の政治活動や宗教活動等で使用するケース、他の団体が行う政治活動や宗教活動等に使用させるケース

(例3) 休眠預金等活用事業により役務提供を受けている受益者を団体の政治活動や宗教活動等に参加させるため執拗な勧誘を行うケース

- 行政施策との関係

行政・NPO・ボランティアとの連携・協働が進展している事業領域においては、休眠預金等活用事業が行政施策の後退を許容するものではないことを前提としつつ、現行の行政施策が十分に行き届いていない場合や、よりきめ細かな支援が必要とされる場合は、以下の観点に即して個別に判断して事業を選定します。

- ① 申請する事業分野における行政施策の取組状況
- ② 本制度により申請事業を実施する意義
- ③ 申請事業終了後に、自治体に対する行政施策化の働きかけ又は行政補助金等を活用した事業継続等を行う見込み

- 他の助成金

国又は地方公共団体から補助金又は貸付金等の支援（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない、かつ受ける予定のない事業の中から助成対象事業を選定します¹⁰。なお、他の助成財団から助成等を受けている団体が、同一事業について実行団体として助成等を受けることは可能とします。

- 事業対象

既存の助成財団等が申請した場合、休眠預金が実質的に他の事業の財源に活用されると想定されるなど、当該財団への単なる財政支援に相当する場合は選定しません。また、営利法人が申請した場合に、当該法人の営業に利するために行う事業であると見受けられる場合は、選定しません。

- 不選定の損害等

審査の結果、実行団体に選定されなかったことによる一切の損害及び本制度に係る法令や政府の運用方針の変更等による損害については、当団体が責任を負うものではありません。

02 審査における歓迎要件

実行団体の選定にあたっては、本事業の目的である「地域に根ざした持続可能な学びの場の創出・拡充」に資する社会的成果の最大化の観点から行います。また、地域・団体の多様性や、取り組みの着眼点・手法の多様性にも配慮し、特定の地域・属性に偏らないよう選定を行います。そのうえで、以下のいずれかに該当する団体については、短期的なアウトカムの実現可能性が高く、支援の効果が大きいと判断されることから、優先的に選定する場合があります。

- 既存資源の活用が可能な団体

すでに施設・設備・スタッフ等の運営資源を有しており、事業開始にあたって準備が整っている、または見通しが立っていること。

¹⁰ 詳細は「[休眠預金による助成金と国等からの補助金の重複受領について](#)」をご参照ください。

- **自己資金の確保または調達見込みが明確な団体**

自己資金を保有している、もしくは寄付・会費・クラウドファンディングなどによる資金調達の具体的なシナリオを有していること。

- **スクール等の運営実績がある団体**

フリースクールやオルタナティブスクールなど、子ども向けの教育・居場所事業の運営経験があり、既に一定のノウハウを有していること。

- **地域・関係者からの信頼と支持を得ている団体**

地域住民、保護者、学校関係者、行政など、関係ステークホルダーとの関係性が築かれており、協働・連携の体制があること。

なお、選定にあたっては、ジェンダー平等、社会的弱者への支援、多様性の尊重等の社会的視点にも配慮するとともに、地域や分野の垣根を越えた協働のあり方、ICT等の活用を通じた創意ある取り組みにも注目し、革新性のある提案を高く評価します。

03 その他の審査における着眼点

以下の着眼点に即して審査を実施します。

- ① 利益相反防止のための措置を講じない限り、資金分配団体と利益相反の関係があるとみられる組織、団体等を実行団体に選定しないこと

※以下、利益相反と考えられる場合とその対応についての例です。

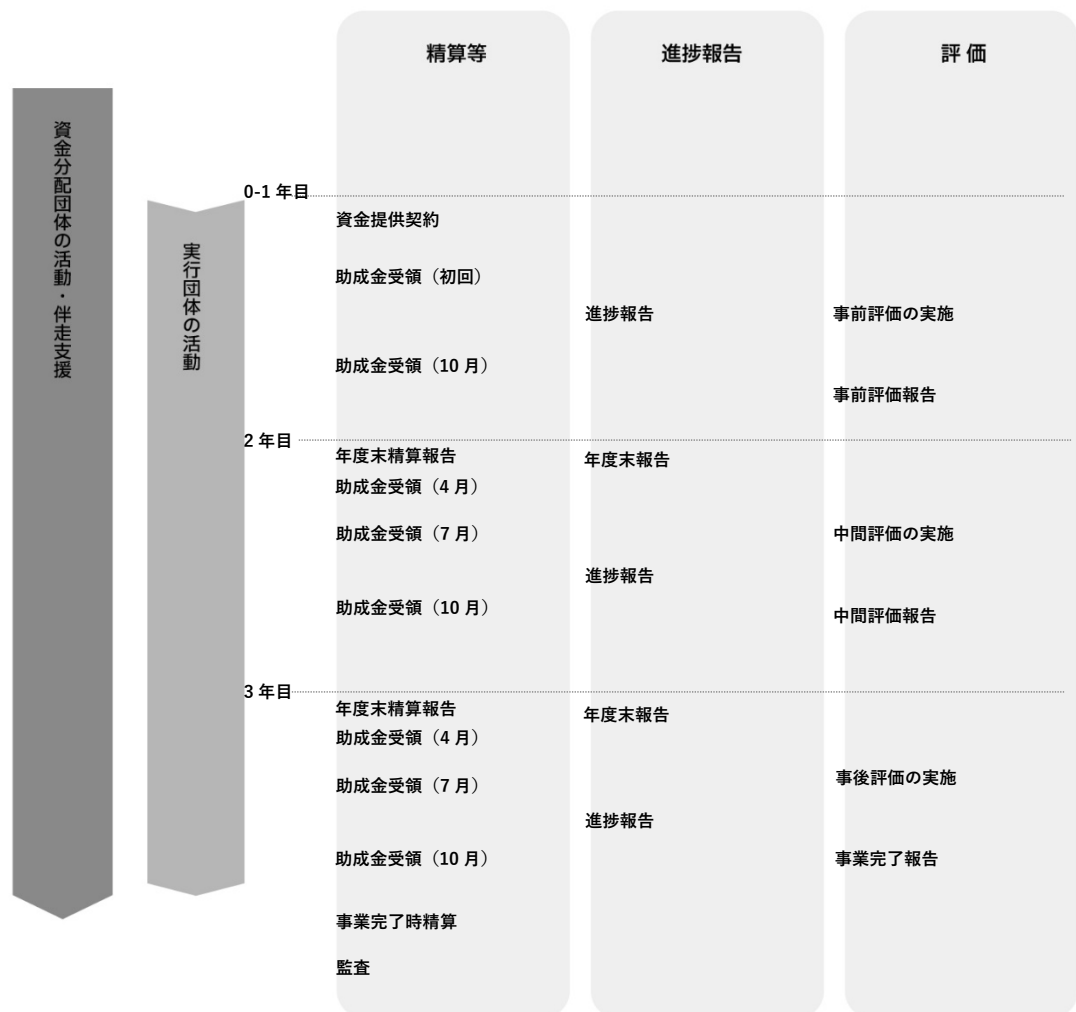
- 資金分配団体の理事等の役員が実行団体の候補団体の役員に就任している場合、又はその逆のケースは、利益相反のリスクがあるため原則として当該団体を実行団体に選定することを避けるべきであり、資金分配団体、実行団体いずれかの役員を辞職していただくのが原則です。
 - 実行団体の募集にあたっては、会員（メンバー）団体に限定せず、それ以外の団体にもオープンに、公平・公正に公募を行います。
- ② 事業を公正かつ適確に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えていること
 - ③ ガバナンス・コンプライアンス体制等については、資金分配団体が整備等を行うガバナンス・コンプライアンス体制等に準じた体制を目指していること

第III編 選定から助成終了まで

1 章 助成事業の流れ

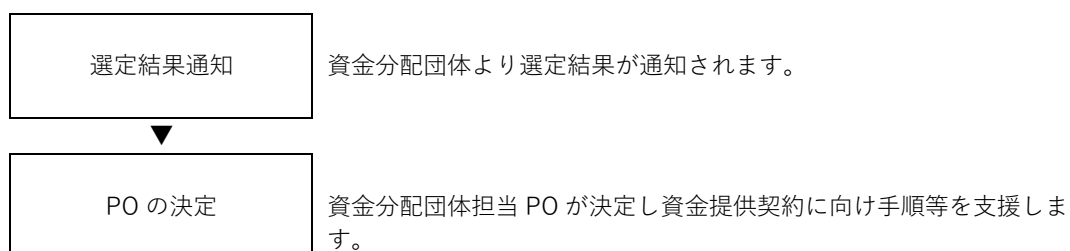
01 助成期間中の主な流れ

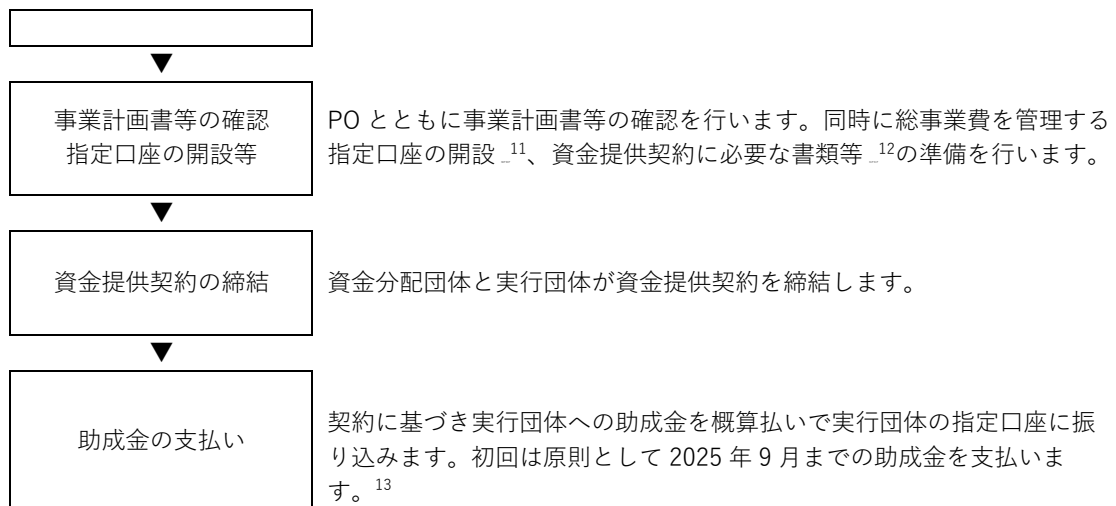
実行団体の助成期間中の主な流れは次のとおりです。（例：3 年事業の場合）



02 内定から資金提供契約まで

採択が決定（内定）してから資金提供契約締結による事業開始までの主な流れは次のとおりです。





03 資金提供契約及びその要点

資金提供契約は、助成事業の実施に関して必要な事項を定めた JANPIA 指定の資金提供契約書（ひな型）により行います。原則、この資金提供契約は変更できません。以下、資金提供契約の要点を記載します。詳細については資金提供契約書（ひな型）をご参照ください。

- ① 進捗管理、各種報告
資金分配団体は実行団体の進捗管理を行います。原則として毎月 1 回以上、対面形式（WEB 会議を含む）による進捗状況について協議を行います。
また、実行団体は、資金提供契約に基づき、休眠預金助成システムを用いて原則として 6 か月ごとに民間公益活動の進捗状況の報告を行います。さらに、各事業年度が終了するごとに翌月までに事業と収支の報告を行います。
- ② ガバナンス・コンプライアンス体制の整備
実行団体は、不正行為、利益相反その他組織運営上のリスクを管理するため、ガバナンス・コンプライアンス体制の整備を行います。また、総事業費の不正使用、違法行為等が疑われる場合には、直ちに資金分配団体に通知し不正行為等の是正のために必要な措置を講ずるものとします。
なお、実行団体は不正行為等の事案が明らかになった場合は、当該事案が発生した原因を究明し、再発の防止のための措置を講ずるとともに、その事案の内容等について資金分配団体に報告し公表することとします。
- ③ 実行団体の選定及び監督
資金分配団体は、実行団体の選定に当たっては、実行団体の多様性に十分配慮するとともに、採択結果が特定の団体等に偏らないよう留意します。なお、資金分配団体と実行団体は資金提供契約を締結し、事業の進捗状況の把握と緊密な連携を行います。
- ④ 事業の評価
休眠預金制度の事業の実施に当たっては、達成すべき成果を事前に明示したうえで、

¹¹ 総事業費を一元的に管理するため、本事業の総事業費のみを管理するための指定口座を開設します。なお、預金保険制度により万一の時にも預金が全額保護されるべきという観点から、決済用預金口座を開設してください。通帳がない口座については、インターネットを通じ取引明細が随時出力できるものに限りします。休眠預金事業では、総事業費は指定口座でのみ管理します。また、総事業費以外の金銭の管理を行わないようにし、本総事業費は運用しないでください。

¹² 印鑑証明書、現在事項全部証明書（取得から 3 ヶ月以内のもの）、指定口座の通帳コピー等。

¹³ 詳細は「積算の手引き」をご参照ください。

その成果の達成度合いを重視した「社会的インパクト評価」を実施することで、成果の可視化に取り組むこととしています。

⑤ シンボルマークの活用

休眠預金等を活用して実施する事業であることを示すためのシンボルマーク¹⁴を表示してください。具体的な利用方法については、JANPIA が別途定める「シンボルマーク利用手引き」をご参照ください。

⑥ 情報公開

資金分配団体は、実行団体の公募に当たって、公募要領や公募に必要な書式について自団体の WEB サイトで公表します¹⁵。また、実行団体は、人件費の水準、ガバナンス・コンプライアンス体制に関する規程類等を自団体の WEB サイトで一般に公表します。なお、JANPIA は、資金分配団体及び実行団体が助成システムへ登録した情報のうち公開情報として登録された情報について、広く一般に公開できるものとします¹⁶。

⑦ 選定の取消し

資金分配団体は、実行団体が次のいずれかに該当すると判断した場合、選定の取消し、又は事業の全部若しくは一部の停止を求めることができます。実行団体は、この求めに応じる必要があります。さらに、選定を取り消され、その取消しの日から3年を経過しない団体は、資金分配団体の選定に申請することができません。

- 助成金の活用による助成事業の適正かつ確実な実施が困難であるとき
- 不正行為等があったとき
- 関連法規等に基づく措置、処分等又は資金提供契約に違反したとき
- 上記に掲げる事由のほか、本契約が解除された場合、その他助成金の公正な活用及び事業の適正な遂行が困難と認められるとき

⑧ 規程類の整備・公開

実行団体の規程類が資金分配団体と実行団体間で定めた期限内に公開されない場合、資金分配団体は実行団体の規程が公開されない理由を確認のうえ、事業の実施期間中においては実行団体への助成額の全部若しくは一部の支払いを留保できるものとし、事業終了後においては期限までに規程を整備公開しなかった事実を今後の休眠預金等に係る資金の活用に関する事業の公募申請審査において実行団体の評価における減点要素にすることができるものとする。

JANPIA 及び資金分配団体は実行団体において整備された規程の運用状況について本事業終了後1年後を目途に調査できるものとし、実行団体はこれに協力するものとする。

04 助成金の公正な活用及び事業の適正な遂行の確保

資金分配団体は、資金提供契約に基づき実行団体における助成金の公正な活用及び事業の適正な遂行を確保するため、必要があると認めるときは、実行団体に対し以下の措置を講ずることとします。また、不正行為等があったときには、資金分配団体又は JANPIA の WEB サイトにおいて当該事案を広く公表することとします。

¹⁴ [シンボルマークのダウンロード](#)、[シンボルマークの規程、手引き等](#)

¹⁵ 公募終了時に、申請した団体の情報（団体名・所在地・事業名・事業概要）、さらに採択団体決定時に、選定した実行団体の名称、申請事業の名称及び概要、選定過程、選定理由、助成総額とその算定根拠を当該資金分配団体の WEB サイトで少なくとも助成期間が終了するまで一般に公表します。

¹⁶ これらの事業の情報に関して JANPIA は、資金分配団体および実行団体と協議の上、JANPIA の事業報告書・WEB サイトその他の媒体により広く一般に公開できるものとします。

- ① 実行団体における助成金を活用した事業または当該事業に関する財産の状況に関する報告、資料の提出。
- ② JANPIA 及び資金分配団体の職員に実行団体の営業所若しくは事務所その他の施設に立ち入らせ、助成金を活用した事業及び財産の状況に関する質問、帳簿書類その他の物件の検査。
- ③ 当該実行団体における事業の公正かつ的確な遂行のための体制整備等の履行を担保するための措置。
- ④ 助成金の公正な活用及び事業の適正な遂行を確保するために必要な措置。
- ⑤ 資金分配団体が実行団体を監督するための必要な事項の確認。

05 会計監査の実施

本事業を含む毎年度の決算書類について、内部監査又は外部監査を実施してください。可能であれば外部監査を受けることを推奨します。なお、外部監査に係る経費については、管理的経費に含めることができます。

2章 その他

01 個人情報の取扱いについて

全ての個人情報について、不正アクセス、盗難、持ち出し等による紛失、破壊、改ざん及び漏えい等が発生しないように適正に管理し、必要な予防・是正等の適切な安全管理措置を講じます。また、個人情報の取扱いを第三者に委託する場合は、適切な委託先を選定するとともに、委託先に安全管理措置を遵守させるために必要な契約を締結し、さらに、委託先において個人情報の適正な管理が行われるよう管理・監督します。

お問い合わせ先

NPO 法人エデュケーションエーキューブ
福岡市西区野方 1-19-33
070-5495-2695
ykusaba@education-a3.net

別添 1：ガバナンス・コンプライアンス体制現況確認書作成の際の参考資料

自団体におけるガバナンス・コンプライアンス体制の現況を確認いただきます。

休眠預金活用事業としての説明責任を果たすために、適切な資金管理とそれを支える体制確保が求められます。この体制整備については、実行団体の規模、体制整備の実状などを踏まえて、事業実施期間中を通じて段階的に取り組み、実効性のある体制確保に努めます（運営ルールの明確化、法人形態毎に求められる体制整備について実効性のある形で実施）。

自団体における指針・ガイドライン・事務フローなど、組織内で適切な資金管理をはじめ事業実施に必要な意思決定や進捗管理等に必要なルール等が明確化され、役職員等に周知されている状態を目指します。

ガバナンス・コンプライアンスに関し整備する事項	実行団体整備義務
① 契約締結時までに、休眠預金の資金を適切に扱っていただくために、すべての実行団体に対応いただきたい事項	
社員総会・評議員会の運営に関すること	◎
理事会の構成に関すること ※理事会を設置していない場合は不要	◎
理事会の運営に関すること	◎
経理に関すること	◎
コンプライアンスに関すること ※契約締結時までにコンプライアンス施策を検討・実施する責任者を設置	○
内部通報者保護に関すること ※自団体で整備困難な場合、JANPIA のヘルプライン窓口を活用可能です	○
② 事業実施期間中に、段階的に取り組みいただく事項	
利益相反防止に関すること	△
倫理に関すること（ハラスメント禁止に関することを含む）	△
理事の職務権限に関すること	△
監事の監査に関すること	△
組織（事務局）に関すること	△
文書管理に関すること	△
情報公開に関すること	△
リスク管理に関すること	△
役員及び評議員の報酬等に関すること	△
職員の給与等に関すること	△

◎契約締結時までに整備、○一部を契約締結時まで、残りを契約期間中に整備、△契約期間中に整備

※ 考慮される団体の特性

- ・ 助成実績の経験値（有無、年数、助成額の規模感）
- ・ 専門性を有するメンバーの在籍の有無（経理の専任者の有無、団体運営の実務経験を有する職員の在籍の有無他）
- ・ 団体の法的ステータス（法人形態、任意団体等）
- ・ 団体運営をサポートする体制・現状（業務の外部委託等の状況）など

別添 2：コンソーシアムでの申請

申請事業の運営の意思決定及び実施を 2 団体以上で共同して行う場合には、コンソーシアムでの申請を行うことができます。

- ① コンソーシアムを構成する団体（構成団体）から幹事団体を選び、申請は幹事団体が行います。
- ② 申請にあたり、構成団体間で合意された各構成団体の役割については、事業計画書「実施体制」に記入してください。
- ③ 申請書類については、幹事団体は前述の「申請に必要な書類」に記載されている書類をご提出ください。また、幹事団体以外の各構成団体の書類については、幹事団体が構成団体ごとに zip ファイルで取りまとめたうえでご提出ください。
- ④ 採択された場合は、資金提供契約締結時に、構成団体間で、次の内容を定めた「コンソーシアム協定書」を締結していただきます。
[定める内容]
構成団体間で合意された各構成団体の役割、意思決定機関としての運営委員会の設置、コンプライアンス責任者の設置、内部通報窓口の設置（JANPIA の内部通報窓口が利用可能です）、連帯責任内容、並びに運営規則等
- ⑤ 「コンソーシアム協定書」作成の際に、「コンソーシアム協定書作成における留意点」を参考にしてください。
- ⑥ 当該協定書の写し（コピー）は参考資料として資金分配団体との資金提供契約の締結時に資金分配団体に提出していただきます。
- ⑦ 各構成団体で、自団体における、指針・ガイドライン・事務フローなど組織内において、適切な資金管理をはじめ事業実施に必要となる意思決定や進捗管理等に必要となるルール等が明確化され、役職員等に周知されている状態を目指します。